

## **第2部 医療圏と基準病床数、保健医療資源等の状況**



# 第1章 医療圏と基準病床数等

## 第1節 医療圏及び構想区域の設定

### 1 医療圏の設定

県民が等しく医療サービスを受けることができる医療提供体制を確立するため、法第30条の4第2項第14号及び第15号の規定に基づく医療圏を次のとおり設定します。

#### (1) 一次医療圏（市町村）

身近な医療の実施単位として、住民が日常生活の中で診療を受ける圏域を指します。市町村の区域を単位とします。

#### (2) 二次医療圏（5圏域）

入院医療を主体とした医療活動が概ね完結する圏域を指します。下記の5圏域を単位とします。

#### (3) 三次医療圏（県全域）

先進的な技術や特殊な医療、専門性の高い救急医療などを提供する圏域を指します。県全域を単位とします。

表2-1-1 二次医療圏の人口、面積、区域

圏域名	人口（人）	面積（km <sup>2</sup> ）	区域
岐阜	793,551	993.28	岐阜市、羽島市、各務原市、山県市、瑞穂市、本巣市、岐南町、笠松町、北方町
西濃	358,439	1,432.94	大垣市、海津市、養老町、垂井町、関ヶ原町、神戸町、輪之内町、安八町、揖斐川町、大野町、池田町
中濃	364,282	2,454.26	関市、美濃市、美濃加茂市、可児市、郡上市、坂祝町、富加町、川辺町、七宗町、八百津町、白川町、東白川村、御嵩町
東濃	323,574	1,562.82	多治見市、中津川市、瑞浪市、恵那市、土岐市
飛騨	138,896	4,177.99	高山市、飛騨市、下呂市、白川村
県計	1,978,742	10,621.29	

【出典：国勢調査（総務省統計局）（令和2年10月1日現在）

令和5年全国都道府県市区町村別面積調（国土地理院）】

図 2-1-1 二次医療圏区域図



## 2 構想区域の設定

地域医療構想において、病床の機能の分化及び連携を推進するための基準となる区域として定める構想区域（法第 30 条の 4 第 2 項第 7 号）については、二次医療圏と同一とします。

## 3 圏域の設定

5 疾病・6 事業及び在宅医療それぞれに係る医療提供体制を構築する際の圏域については、二次医療圏と同一とします。

## 第2節 基準病床数及び病床の必要量（必要病床数）の設定

### 1 基準病床数の設定

法第30条の4第2項第17号に規定する基準病床数は、以下のとおりとします。

基準病床数は、病床過剰地域から非過剰地域へ誘導することを通じて、病床の地域的偏在を是正し、全国的に一定水準以上の医療を確保するため、全国统一の算定式により算定するものです。

病床過剰地域では、原則として公的医療機関等の開設・増床が制限されます。岐阜圏域及び飛騨圏域では、療養病床及び一般病床の令和5年9月末現在の既存病床数が、基準病床数を上回っています。

表 2-1-2 基準病床数

病床種別	圏域名	基準病床数（床）
療養病床 及び 一般病床	岐阜圏域	6,908
	西濃圏域	2,568
	中濃圏域	2,725
	東濃圏域	2,666
	飛騨圏域	1,199
	計	16,066
精神病床		3,359
結核病床		48
感染症病床		30

表 2-1-3 既存病床数（令和5年9月30日現在）

病床種別	圏域名	既存病床数（床）
療養病床 及び 一般病床	岐阜圏域	6,955
	西濃圏域	2,403
	中濃圏域	2,700
	東濃圏域	2,369
	飛騨圏域	1,270
	計	15,697
精神病床		3,799
結核病床		101
感染症病床		30

※既存病床数は、病院の開設許可病床数をもとに法第7条の2第4項の規定に基づき補正を行った後の数値です。また、介護医療院<sup>5</sup>への転換分は含まない数値です。

<sup>5</sup> 介護医療院：要介護者であって、主として長期にわたり療養が必要である者に対し、施設サービス計画に基づいて、療養上の管理、看護、医学的管理の下における介護及び機能訓練その他必要な医療並びに日常生活上の世話をを行うことを目的とする施設。

## 2 病床の必要量（必要病床数）の設定

法第30条の4第2項第7号イに規定する、将来（令和7年（2025年））における医療需要に基づき推計される病床数の必要量（必要病床数）は以下のとおりです。

表 2-1-4 将来（令和7年（2025年））における病床の必要量（必要病床数）

	岐阜圏域	西濃圏域	中濃圏域	東濃圏域	飛騨圏域	合計
高度急性期	869	253	226	236	108	1,692
急性期	2,757	917	902	836	380	5,792
回復期	2,201	744	841	653	326	4,765
慢性期	1,247	516	442	332	192	2,729
合計	7,074	2,430	2,411	2,057	1,006	14,978
在宅医療等 <sup>6</sup> 患者数	10,684	4,005	3,934	4,449	1,908	24,980

※在宅医療等患者数は「地域医療構想策定ガイドラインについて」（平成27年3月31日付医政発0331第53号）の別添1「地域医療構想策定ガイドライン」により、在宅医療等に対応すべきとされている入院患者数を含めて算出しています。

※各病床の機能区分は、医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）により、以下のとおり定められています。

表 2-1-5 病床の機能区分

医療機能の名称	医療機能の内容
高度急性期機能	○ 急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、診療密度が特に高い医療を提供する機能 ※高度急性期機能に該当すると考えられる病棟の例 救命救急病棟、集中治療室、ハイケアユニット、新生児集中治療室、新生児治療回復室、小児集中治療室、総合周産期集中治療室など、急性期の患者に対して診療密度が特に高い医療を提供する病棟
急性期機能	○ 急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、医療を提供する機能
回復期機能	○ 急性期を経過した患者への在宅復帰に向けた医療やリハビリテーションを提供する機能。 ○ 特に、急性期を経過した脳血管疾患や大腿骨頸部骨折等の患者に対し、ADL（日常生活動作）の向上や在宅復帰を目的としたリハビリテーションを集中的に提供する機能（回復期リハビリテーション機能）
慢性期機能	○ 長期にわたり療養が必要な患者を入院させる機能 ○ 長期にわたり療養が必要な重度の障がい者（重度の意識障がい者を含む）、筋ジストロフィー患者又は難病患者等を入院させる機能

<sup>6</sup> 在宅医療等：居宅、特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、軽費老人ホーム、有料老人ホーム、介護老人保健施設、その他医療を受ける者が療養生活を営むことができる場所であって、現在の病院・診療所以外の場所において提供される医療。

## 第2章 保健医療施設等の概況

### 第1節 医療提供施設の状況

#### 1 病院

病院数は減少傾向にあり、令和2年では97施設となっています。病床数も同様に減少傾向にあり、令和2年では19,782床となっています。

表 2-2-1 病院数及び病床数の推移

		平成14年	平成17年	平成20年	平成23年	平成26年	平成29年	令和2年
一般病院		99	97	90	91	90	89	85
精神科病院		13	13	13	13	12	12	12
計		112	110	103	104	102	101	97
病床	一般	16,490	12,927	13,029	12,969	13,105	13,138	12,838
	療養	—	3,451	3,461	3,432	3,389	3,199	2,950
	精神	4,360	4,324	4,273	4,192	4,066	3,962	3,863
	結核	341	167	157	137	137	127	101
	感染症	28	28	30	30	30	30	30
	計	21,219	20,897	20,950	20,760	20,727	20,456	19,782

【出典：医療施設調査(厚生労働省)】

表 2-2-2 医療圏別病院数及び病床数（令和2年10月1日現在）

	病院数	病床数計					
			一般	療養	精神	結核	感染症
岐阜	41	8,429	5,862	1,349	1,170	40	8
西濃	15	3,485	1,890	563	986	40	6
中濃	18	3,242	1,988	543	705	0	6
東濃	14	2,899	2,024	258	598	13	6
飛騨	9	1,727	1,074	237	404	8	4
計	97	19,782	12,838	2,950	3,863	101	30

【出典：医療施設調査(厚生労働省)】

## 2 診療所

一般診療所の総数は年々増加していますが、無床診療所が増加する一方、有床診療所は減少しています。また、歯科診療所数は増加が続いていましたが、令和2年には減少に転じました。

さらに圏域別の診療所数を人口 10 万人当たりで見ると、西濃、中濃、東濃圏域でやや少なく、歯科診療所は中濃圏域が少ない状況です。

表 2-2-3 診療所数及び病床数の推移

(単位：ヶ所)

	平成17年	平成20年	平成23年	平成26年	平成29年	令和2年
無床診療所	1,273	1,330	1,386	1,425	1,452	1,487
有床診療所	230	192	184	154	133	123
病床数	2,648	2,205	2,041	1,806	1,657	1,515
計	1,503	1,522	1,570	1,579	1,585	1,610
歯科診療所	929	938	939	947	965	958

【出典：医療施設調査（厚生労働省）】

表 2-2-4 医療圏別一般診療所数及び歯科診療所数（令和2年10月1日現在）

(単位：ヶ所)

	一般診療所			歯科診療所
		無床診療所	有床診療所	
岐阜	704	641	63	440
西濃	259	235	24	181
中濃	270	253	17	134
東濃	246	234	12	147
飛騨	131	124	7	56
合計	1,610	1,487	123	958

【出典：医療施設調査（厚生労働省）】

表 2-2-5 医療圏別一般診療所数及び歯科診療所数（人口10万人当たり）

(令和2年10月1日現在)

(単位：ヶ所)

	一般診療所			歯科診療所
		無床診療所	有床診療所	
岐阜	88.72	80.78	7.94	55.45
西濃	72.26	65.56	6.70	50.50
中濃	74.12	69.45	4.67	36.78
東濃	76.03	72.32	3.71	45.43
飛騨	94.32	89.28	5.04	40.32
合計	81.36	75.15	6.22	48.41

【出典：医療施設調査（厚生労働省）】



### 3 薬局

薬局数は年々増加しており、令和3年度末現在において1,058施設となっています。人口10万人当たりの薬局数でも、全国値を上回る状況となっています。

表 2-2-6 薬局数の推移

(単位：ヶ所)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	全国 (令和3年度)
薬局数	1,021	1,032	1,040	1,052	1,058	61,791
人口10万対	50.8	51.7	52.3	53.2	54.0	49.2

【出典：衛生行政報告例（厚生労働省）】

## 第2節 医療従事者の状況

### 1 医師・歯科医師・薬剤師

県内の医療施設に従事する医師、歯科医師及び薬剤師の数はいずれも増加傾向にあるものの、人口10万人当たりの従事者数では、歯科医師を除いて全国値を下回っています。

圏域別にみると、岐阜圏域は全国値を上回っており、他の圏域は全国値と県全体の値ともに下回っています。

表 2-2-7 医療施設従事者数の推移

(単位：人)

	平成 24 年	平成 26 年	平成 28 年	平成 30 年	令和 2 年
医師	4,028	4,141	4,223	4,295	4,442
歯科医師	1,595	1,593	1,637	1,658	1,678
薬剤師※	2,936	3,099	3,155	3,257	3,392

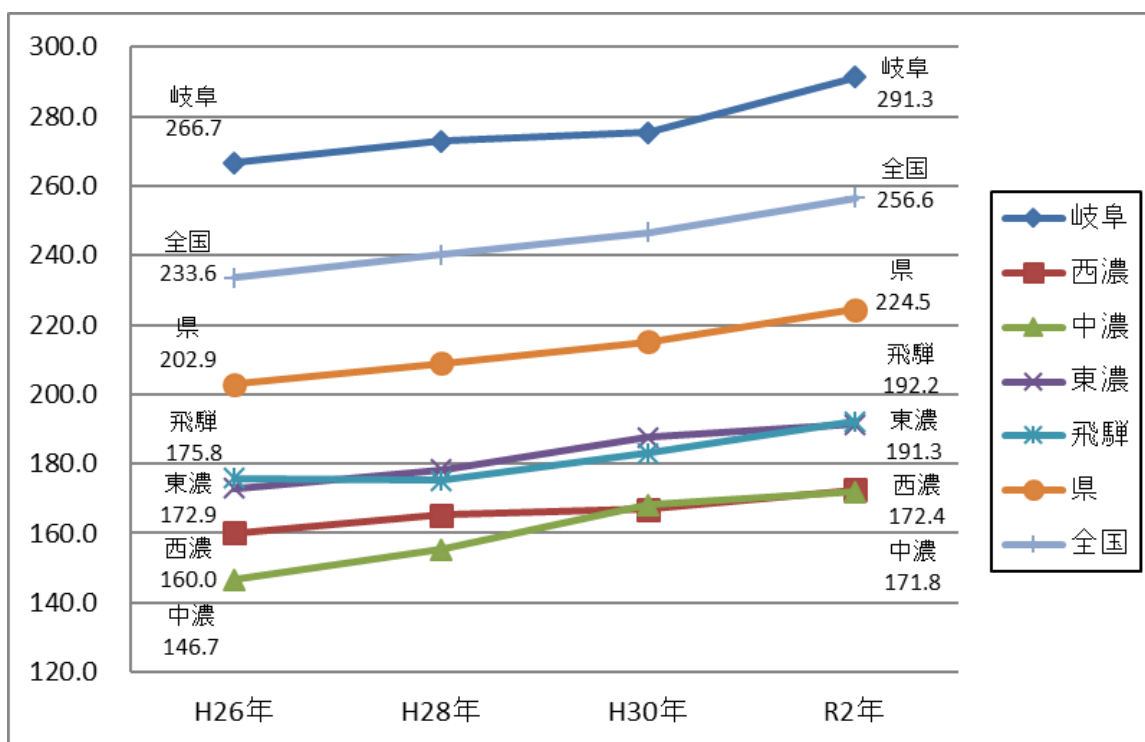
【出典：医師・歯科医師・薬剤師統計（厚生労働省）】

※各年 12 月 31 日現在の数値

※薬剤師は薬局・医療施設の従事者数

図 2-2-1 圏域別医師数（人口 10 万人あたり）

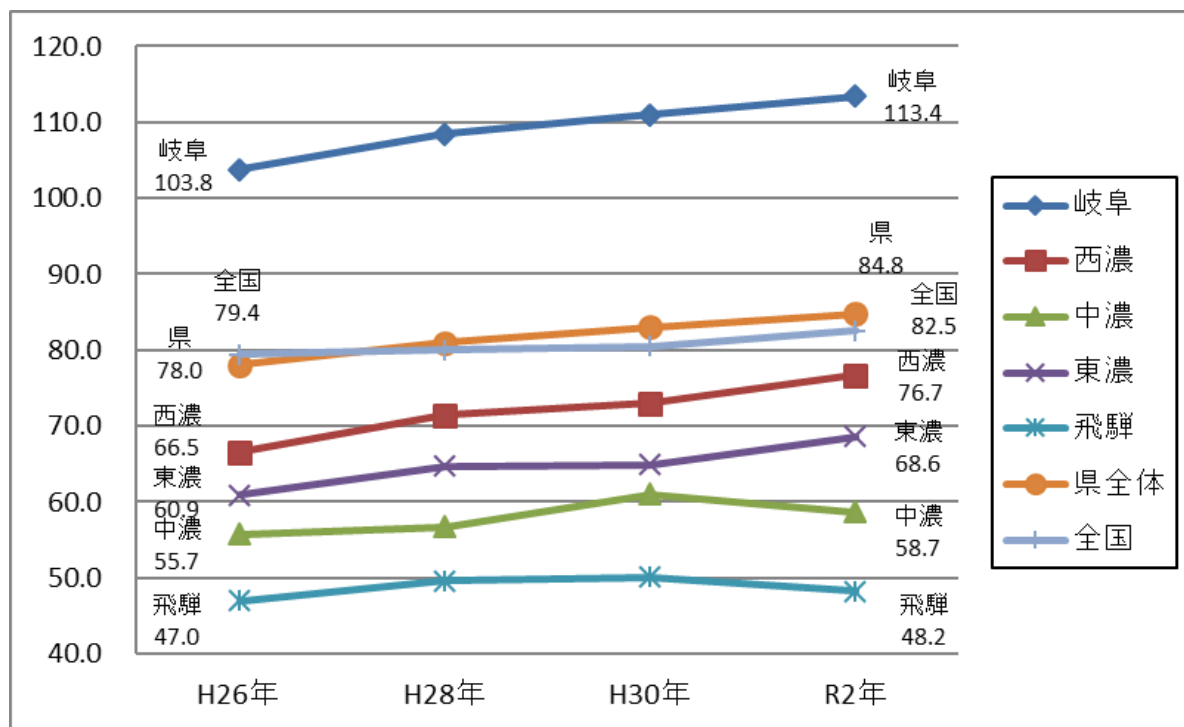
(単位：人)



【出典：医師・歯科医師・薬剤師統計（厚生労働省）】

図 2-2-2 圏域別歯科医師数（人口 10 万人当たり）

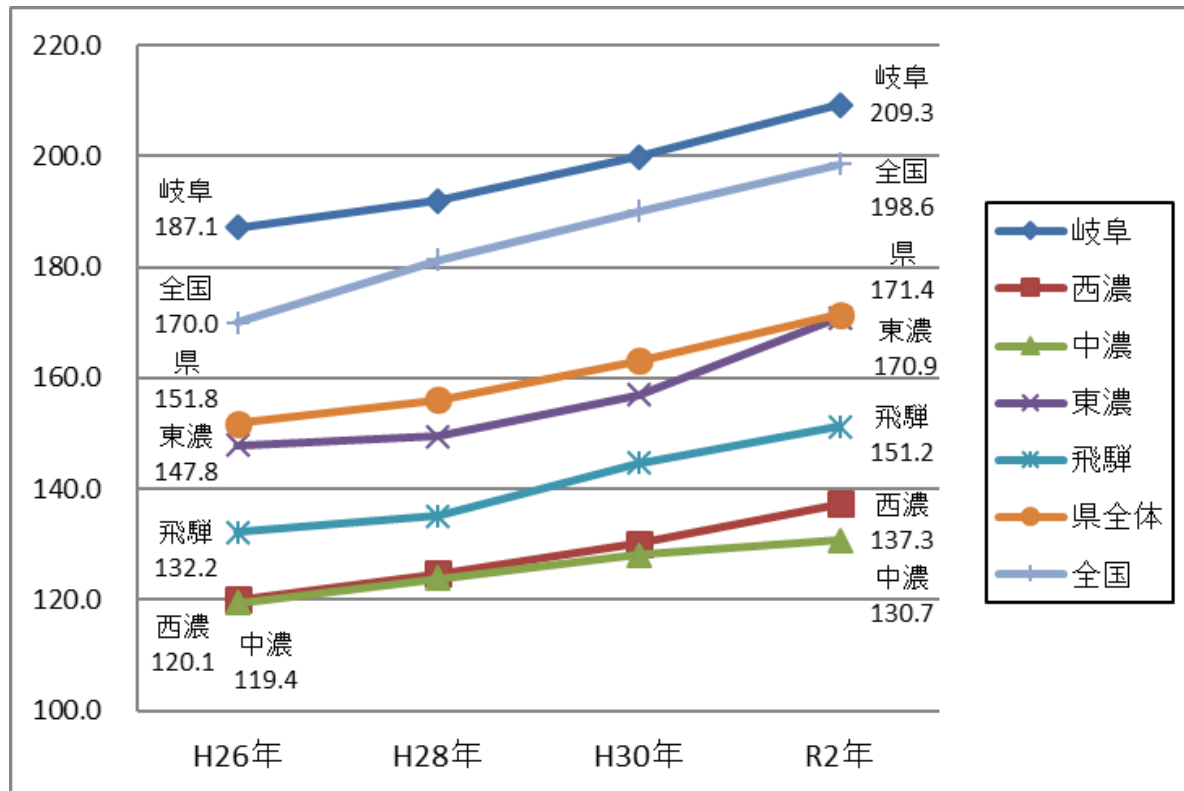
（単位：人）



【出典：医師・歯科医師・薬剤師統計（厚生労働省）】

図 2-2-3 圏域別薬剤師数（人口 10 万人当たり）

（単位：人）



【出典：医師・歯科医師・薬剤師統計（厚生労働省）】

### 第3節 県民の受療状況

#### 1 患者数の状況

令和2年10月現在における県内の医療機関の推計患者数は、入院患者数が15.2千人、外来患者数が120.0千人となっています。このうち入院患者数は、65歳以上の患者割合が70%以上を占めています。

傷病分類別にみると、入院患者数は「精神及び行動の障害」、「循環器系の疾患」、「新生物」の順に多く、外来患者数では、「消化器系の疾患」、「循環器系の疾患」、「健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用」の順に多くなっています。

表 2-2-8 県内医療機関における年齢階級別・性別推計患者数の状況 (単位:千人)

	平成29年						令和2年					
	入院			外来			入院			外来		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
0～4歳	0.2	0.1	0.1	5.5	3.0	2.5	0.2	0.1	0.1	5.8	3.2	2.6
5～14	0.2	0.1	0.1	6.5	3.5	3.0	0.1	0.1	0.0	9.6	5.3	4.3
15～24	0.2	0.1	0.1	3.8	1.7	2.1	0.2	0.1	0.1	4.4	1.9	2.5
25～34	0.5	0.2	0.4	5.9	2.2	3.7	0.4	0.2	0.2	5.6	1.9	3.6
35～44	0.6	0.3	0.3	7.9	3.2	4.7	0.5	0.2	0.3	8.0	2.6	5.3
45～54	1.1	0.6	0.4	11.4	5.0	6.4	0.9	0.5	0.4	12.0	4.9	7.2
55～64	1.7	1.0	0.7	14.8	6.5	8.4	1.6	1.0	0.6	13.9	5.5	8.4
65～74	3.4	2.0	1.4	27.9	13.3	14.5	3.0	1.7	1.2	24.4	11.1	13.3
75～84	4.6	2.2	2.4	27.2	12.5	14.7	4.2	2.1	2.1	24.5	11.3	13.2
85歳以上	4.3	1.5	2.8	11.2	3.7	7.5	4.0	1.4	2.6	11.4	3.8	7.6
不詳	0.0	0.0	0.0	0.2	0.1	0.1	0.0	—	0.0	0.2	0.0	0.2
65～(再掲)	12.3	5.7	6.5	66.3	29.6	36.7	11.2	5.2	6.0	60.4	26.2	34.2
70～(再掲)	10.6	4.7	5.8	52.2	22.9	29.3	10.0	4.6	5.4	50.1	21.8	28.4
75～(再掲)	8.9	3.7	5.2	38.4	16.3	22.2	8.2	3.5	4.7	36.0	15.1	20.9
総数	16.8	8.1	8.6	122.3	54.7	67.6	15.2	7.4	7.8	120.0	51.6	68.4

【出典：患者調査（厚生労働省）】 ※それぞれ四捨五入しているため、総数が合計値と一致しないことがある

表 2-2-9 県内医療機関における傷病分類別の推計患者数の状況

(単位：千人)

傷病分類	平成29年		令和2年	
	入院	外来	入院	外来
感染症及び寄生虫症	0.2	2.7	0.2	2.7
新生物	1.9	4.5	1.9	4.2
悪性新生物	1.7	3.3	1.7	3.0
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0.1	0.7	0.1	0.4
内分泌、栄養及び代謝疾患	0.4	8.9	0.3	7.2
糖尿病	0.2	4.4	0.2	3.0
精神及び行動の障害	3.1	4.0	2.9	3.8
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	2.2	0.8	2.1	0.5
気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）	0.3	1.1	0.3	0.8
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	0.1	0.8	0.1	1.0
神経系の疾患	1.1	2.5	1.2	3.1
眼及び付属器の疾患	0.2	5.9	0.1	5.9
白内障	0.1	1.5	0.0	1.2
耳及び乳様突起の疾患	0.0	1.7	0.0	1.8
循環器系の疾患	2.9	17.2	2.6	16.0
高血圧性疾患	0.0	11.9	0.0	11.4
脳血管疾患	1.7	1.2	1.5	1.6
呼吸器系の疾患	1.6	9.0	1.2	8.1
肺炎	0.7	0.1	0.4	0.1
喘息	0.0	1.6	0.0	1.3
消化器系の疾患	1.0	19.2	0.8	23.6
う蝕	-	2.7	-	5.0
肉炎及び歯周疾患	0.0	8.2	0.0	10.5
胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	0.0	0.4	0.0	0.2
肝疾患	0.1	0.5	0.1	0.6
皮膚及び皮下組織の疾患	0.2	4.4	0.2	4.6
筋骨格系及び結合組織の疾患	0.8	18.2	0.6	13.6
脊柱障害	0.3	9.1	0.2	7.1
腎尿路生殖器系の疾患	0.7	4.4	0.7	4.5
糸球体疾患、腎尿細管間質性疾患及び腎不全	0.5	2.7	0.5	1.6
前立腺肥大（症）	0.0	0.3	0.0	2.0
乳房及び女性生殖器の疾患	0.1	0.9	0.2	1.0
妊娠、分娩及び産じょく	0.2	0.3	0.2	0.1
周産期に発生した病態	0.1	0.1	0.1	0.0
先天奇形、変形及び染色体異常	0.1	0.3	0.1	0.2
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	0.2	1.4	0.1	1.1
損傷、中毒及びその他の外因の影響	2.0	6.1	1.7	4.7
骨折	1.4	2.0	1.1	1.6
健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	0.1	10.9	0.1	14.3
歯の補てつ	-	3.2	-	4.3
総数	16.8	122.3	15.2	120.0

【出典：患者調査（厚生労働省）】※それぞれ四捨五入しているため、総数が合計値と一致しないことがある

## 2 入院先の状況と他圏域への流出、他圏域からの流入の状況

患者の住所地と入院先の病院の所在地について見てみると、岐阜圏域に住む患者が自圏域に所在する病院に入院する割合は90%弱と高い一方、中濃圏域や東濃圏域に住む患者はそれぞれ30%弱が県内の他の圏域あるいは県外に入院しています。流出先としては、西濃圏域、中濃圏域に住む患者は岐阜圏域が、東濃圏域に住む患者は愛知県が多い状況です。また、県全体では、県外への流出割合は8～9%、県外からの流入割合は3～4%となっています。

なお、傷病分類別の入院先の状況では、特に特定の傷病で県外流出が大きいという状況はありません。

表 2-2-10 入院に見る他圏域への流出状況と他圏域からの流入状況

[平成 29 年 10 月]

(単位：千人)

			患者住所地別推計入院患者数	施設所在地								患者流出割合 (%)
				県内						県外		
				岐阜圏域	西濃圏域	中濃圏域	東濃圏域	飛騨圏域	計	愛知県	富山県	
施設所在地別推計入院患者数				7.0	2.8	2.7	2.3	1.4	16.1			
患者住所地	県内	岐阜圏域	6.5	5.8	0.3	0.1	0.0	—	6.2	0.3	0.0	10.8
		西濃圏域	2.9	0.4	2.4	0.0	0.0	—	2.8	0.1	0.0	17.2
		中濃圏域	3.3	0.5	0.0	2.4	0.1	0.0	3.0	0.2	—	27.3
		東濃圏域	2.8	0.0	0.0	0.1	2.0	0.0	2.2	0.6	—	28.6
		飛騨圏域	1.5	0.0	—	0.0	—	1.3	1.4	0.1	0.1	13.3
	計	17.0	6.7	2.7	2.6	2.2	1.4	15.5	1.2	0.1	8.8	
	県外	愛知県		0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4			
滋賀県		0.0	0.1	0.0	—	—	0.1					
患者流入割合 (%)			17.1	14.3	11.1	13.0	7.1	3.7				

[令和 2 年 10 月]

(単位：千人)

			患者住所地別推計入院患者数	施設所在地								患者流出割合 (%)
				県内						県外		
				岐阜圏域	西濃圏域	中濃圏域	東濃圏域	飛騨圏域	計	愛知県	富山県	
施設所在地別推計入院患者数				6.3	2.7	2.5	2.0	1.2	14.7			
患者住所地	県内	岐阜圏域	5.8	5.1	0.3	0.1	0.0	0.0	5.4	0.3	0.0	12.1
		西濃圏域	2.8	0.5	2.2	0.0	0.0	—	2.7	0.1	—	21.4
		中濃圏域	3.1	0.4	0.0	2.3	0.1	0.0	2.8	0.2	—	25.8
		東濃圏域	2.5	0.1	0.0	0.1	1.8	0.0	2.0	0.4	—	28.0
		飛騨圏域	1.4	0.1	0.0	0.0	—	1.1	1.2	0.0	0.1	21.4
	計	15.5	6.1	2.6	2.5	2.0	1.2	14.2	1.1	0.1	8.4	
	県外	愛知県		0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.3			
滋賀県		0.0	0.0	0.0	—	—	0.0					
患者流入割合 (%)			19.0	18.5	8.0	10.0	8.3	3.4				

【出典：患者調査（厚生労働省）】

※それぞれ四捨五入しているため、計が各数の和と一致しないことがある

※「患者流出割合(%)」欄は、各圏域等の患者住所地別推計入院患者数から自圏域等内の施設所在地別推計患者数を減じた数を、患者住所地別推計患者数で除して得られた値を表示（患者流入割合も同様）

表 2-2-11 傷病分類別に見た入院先の状況

(単位：千人)

傷病分類	平成29年			令和2年		
	総数	県内	県外	総数	県内	県外
感染症及び寄生虫症	0.2	0.2	0.0	0.2	0.2	0.0
新生物	2.0	1.8	0.2	2.0	1.9	0.2
悪性新生物	1.8	1.7	0.2	1.9	1.7	0.2
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	-
内分泌、栄養及び代謝疾患	0.4	0.4	0.0	0.3	0.3	0.0
糖尿病	0.2	0.2	0.0	0.2	0.2	0.0
精神及び行動の障害	3.3	3.0	0.3	3.0	2.8	0.3
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	2.4	2.1	0.2	2.2	2.0	0.2
気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）	0.3	0.3	0.0	0.3	0.2	0.0
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.0
神経系の疾患	1.2	1.0	0.1	1.3	1.1	0.2
眼及び付属器の疾患	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	0.0
白内障	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0
耳及び乳様突起の疾患	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
循環器系の疾患	3.1	2.8	0.3	2.7	2.5	0.2
高血圧性疾患	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
脳血管疾患	1.8	1.6	0.2	1.6	1.5	0.1
呼吸器系の疾患	1.6	1.6	0.1	1.2	1.2	0.0
肺炎	0.7	0.7	0.0	0.4	0.4	0.0
喘息	0.0	0.0	-	0.0	0.0	-
消化器系の疾患	1.0	0.9	0.1	0.9	0.8	0.0
う蝕	-	-	-	-	-	-
肉炎及び歯周疾患	0.0	0.0	-	0.0	0.0	-
胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
肝疾患	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.0
皮膚及び皮下組織の疾患	0.2	0.2	0.0	0.2	0.2	-
筋骨格系及び結合組織の疾患	0.9	0.8	0.2	0.7	0.6	0.1
脊柱障害	0.3	0.2	0.1	0.2	0.2	0.0
腎尿路生殖器系の疾患	0.7	0.7	0.0	0.7	0.7	0.0
糸球体疾患、腎尿細管間質性疾患及び腎不全	0.5	0.4	0.0	0.5	0.5	0.0
前立腺肥大（症）	0.0	0.0	-	0.0	0.0	-
乳房及び女性生殖器の疾患	0.1	0.1	-	0.2	0.2	0.0
妊娠、分娩及び産じょく	0.2	0.2	0.0	0.2	0.1	0.0
周産期に発生した病態	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.0
先天奇形、変形及び染色体異常	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.0
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	0.2	0.2	0.0	0.2	0.1	0.0
損傷、中毒及びその他の外因の影響	2.0	1.9	0.1	1.7	1.6	0.1
骨折	1.4	1.4	0.1	1.2	1.1	0.1
健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.0
歯の補てつ	-	-	-	-	-	-
総数	17.6	16.1	1.5	16.0	14.6	1.3

【出典：患者調査（厚生労働省）】 ※それぞれ四捨五入しているため、総数が合計値と一致しないことがある

### 3 平均在院日数

県内の病院及び療養病床有床診療所における平均在院日数は 24.1 日で、全国値と比べても短く、短縮傾向にあります。短縮幅は小さくなってきており、病床の種類別に見ると療養病床や精神病床は増加に転じています。

圏域毎にも平均在院日数に差が見られ、特に療養病床では、飛騨圏域の平均在院日数が全国値を大きく上回る一方、東濃圏域の平均在院日数は大きく下回っており、その差が顕著です。

表 2-2-12 病院及び療養病床を有する診療所における患者の平均在院日数の推移 (単位:日)

		平成22年	平成25年	平成28年	令和元年
総病床	岐阜県	26.9	25.7	24.6	24.1
	愛知県	27.6	25.8	24.0	23.0
	三重県	33.2	31.1	28.8	27.6
	全国	32.5	30.6	28.5	27.3
一般病床	岐阜県	16.5	16.0	15.6	15.2
	愛知県	16.1	15.2	14.0	13.7
	三重県	17.9	17.0	15.9	15.5
	全国	18.2	17.2	16.2	16.0
療養病床 (介護療養病床を含む)	岐阜県	136.4	124.3	112.0	116.1
	愛知県	171.8	158.5	142.4	122.3
	三重県	163.5	157.4	135.5	117.8
	全国	176.4	168.3	152.2	135.9
介護療養病床	岐阜県	194.9	131.0	154.8	220.1
	愛知県	320.3	351.4	256.7	326.3
	三重県	301.5	349.6	378.7	381.1
	全国	300.2	368.6	314.9	301.4
精神病床	岐阜県	306.7	265.8	256.6	265.5
	愛知県	281.3	264.1	250.0	239.4
	三重県	321.0	308.4	310.5	306.8
	全国	301.0	284.7	269.9	265.8
結核病床	岐阜県	68.9	66.1	72.3	63.2
	愛知県	76.9	76.3	65.1	64.8
	三重県	41.5	45.2	65.6	81.8
	全国	71.5	68.8	66.3	64.6

【出典：病院報告（厚生労働省）】

表 2-2-13 圏域別の平均在院日数の状況

(単位:日)

一般病床

	平成22年	平成25年	平成28年	令和元年
岐阜	16.2	16.1	15.7	15.5
西濃	17.9	17.3	15.9	14.5
中濃	17.5	16.9	17.6	16.5
東濃	15.2	14.0	13.2	13.6
飛騨	16.0	15.4	15.8	15.9
県	16.5	16.0	15.6	15.2
全国	18.2	17.2	16.2	16.0

療養病床

	平成22年	平成25年	平成28年	令和元年
岐阜	181.2	163.0	137.7	118.9
西濃	159.6	138.5	107.1	92.6
中濃	94.4	99.9	119.9	147.1
東濃	70.7	61.6	52.2	83.4
飛騨	331.9	261.3	347.2	236.7
県	136.4	124.3	112.0	116.1
全国	176.4	168.3	152.2	135.9

【出典：病院報告（厚生労働省）】



#### 4 病床利用率

県内の病院及び療養病床有床診療所における病床利用率は75.1%で、愛知県や三重県、全国値と比べても低くなっています。病床の種類別に見ても、精神病床以外については、全国値よりも低い状況です。圏域別では、一般病床の病床利用率が西濃圏域、東濃圏域及び飛騨圏域で低くなっています。また、東濃圏域を除いて減少傾向にあります。一方、療養病床の病床利用率は東濃圏域及び飛騨圏域で高く、西濃圏域が低くなっています。

表 2-2-14 病院及び療養病床を有する診療所における病床利用率の推移（単位：％）

		平成22年	平成25年	平成28年	令和元年
総病床	岐阜県	78.3	77.6	76.1	75.1
	愛知県	83.0	71.3	80.0	80.8
	三重県	81.9	79.9	79.2	80.3
	全国	82.3	81.0	80.1	80.5
一般病床	岐阜県	73.5	73.1	71.7	70.3
	愛知県	76.9	76.0	74.7	76.8
	三重県	74.9	73.7	73.6	75.6
	全国	76.6	75.5	75.2	76.5
療養病床 (介護療養病床を含む)	岐阜県	83.2	80.8	80.5	78.0
	愛知県	93.3	90.2	87.9	85.3
	三重県	89.1	87.7	85.9	85.9
	全国	91.7	89.9	88.2	87.3
介護療養病床	岐阜県	89.9	80.8	85.9	82.1
	愛知県	95.1	91.7	91.3	90.5
	三重県	95.3	93.9	91.5	89.8
	全国	94.9	93.1	91.4	90.7
精神病床	岐阜県	91.6	91.6	89.1	90.7
	愛知県	92.2	89.2	88.3	89.1
	三重県	93.2	88.8	87.5	87.5
	全国	89.6	88.1	86.2	85.9
結核病床	岐阜県	30.1	28.8	26.4	21.6
	愛知県	50.2	53.2	47.5	46.6
	三重県	31.2	36.4	35.6	48.6
	全国	36.5	34.3	34.5	33.2

【出典：病院報告（厚生労働省）】

表 2-2-15 圏域別の病床利用率の状況

(単位：％)

一般病床

	平成22年	平成25年	平成28年	令和元年
岐阜	74.7	75.3	73.8	73.0
西濃	80.0	76.0	73.2	66.6
中濃	79.7	80.1	77.1	75.3
東濃	67.0	63.4	62.3	65.6
飛騨	59.8	63.4	65.6	61.3
県	73.5	73.1	71.7	70.3
全国	76.6	75.5	75.2	76.5

療養病床

	平成22年	平成25年	平成28年	令和元年
岐阜	86.9	80.4	82.8	81.0
西濃	71.3	74.6	70.4	69.0
中濃	82.8	82.8	80.9	76.4
東濃	91.5	89.4	85.6	84.9
飛騨	86.3	84.7	89.5	83.5
県	83.2	80.8	80.5	78.0
全国	91.7	89.9	88.2	87.3

【出典：病院報告（厚生労働省）】

